佐渡の貴重な植物群落 10

小佐渡大倉谷のマメヅタ群落

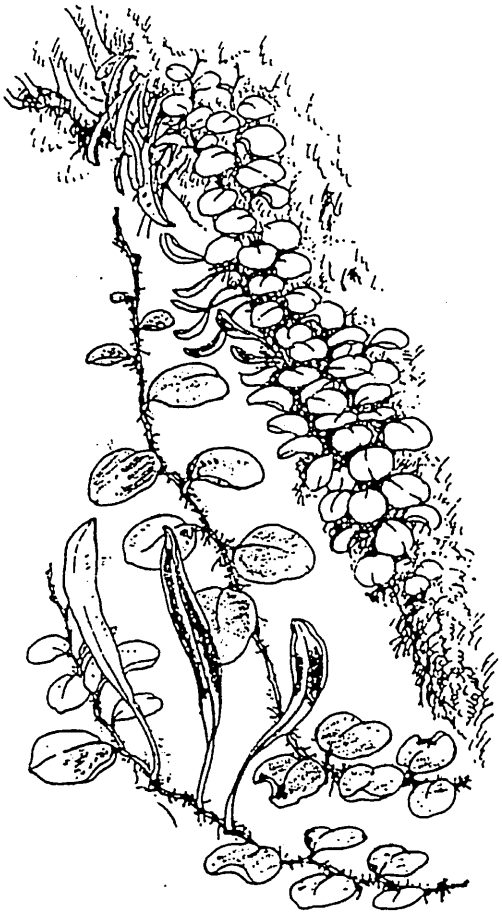
伊藤邦男

マメヅタ *Lemmaphyllom microphyllom*（ウラボシ科）は、暖地系の小形のシダである。和名は裸葉が小形で円く厚味があるのでマメに見たて、根茎がツタ状に長く横にはうことに由る。常緑の多年草で、岩上、樹幹上に着生する。根茎につく葉は、裸葉、胞子葉の二型があり、裸葉は円形、肉厚、光沢のある淡緑色で長さ1cm位。胞子葉は裸葉に混じって着くが少なく、長さ2－4cmのせまいへら形で、葉の中脈の両側に線形の胞子嚢群が着く。

暖地系で、国外では南朝鮮、台湾、中国湖北以南、海南島、印度支那、ヒマラヤなどに分布する。日本では本州（金華山、越後能生、市振以南）、四国、九州、沖縄と暖帯・亜熱帯地域に広く分布する。新潟県内の分布地として『新潟県分布図集第7集』（1986）に越後の能生、市振、青海町を、佐渡の二見神社（海抜10－20m）、真野（35－65m）、吉ケ平（70m）、小川川内（50m）、椿尾（30m）、弁天岩（60m）、大須（10m）、赤泊村杉野浦、小木町強清水（5m）、宿根木（10m）、深浦（10m）、地獄谷（50m）などをあげている。

マメヅタの分布北限は太平洋側の宮城県河北（かほく）町長面、日本海側の北限は佐渡である。

小佐渡の真野湾沿いの「西三川岩石海岸」は全長7kmの岩礁、岩石海岸で海岸自然植生の非常によく保存された海岸で、平成5年（1993）、「新潟のすぐれた自然（すぐれた植物的自然の地域）」に指定された。この海岸は、海抜60mの海岸段丘下にあるが、この海岸段丘を開析する7つの谷がある。大倉谷もそのひとつの谷で、いずれの谷も、スダジイ・タブ・アカガシ・ヤブツバキなどの暖帯林が渓谷林となっている。

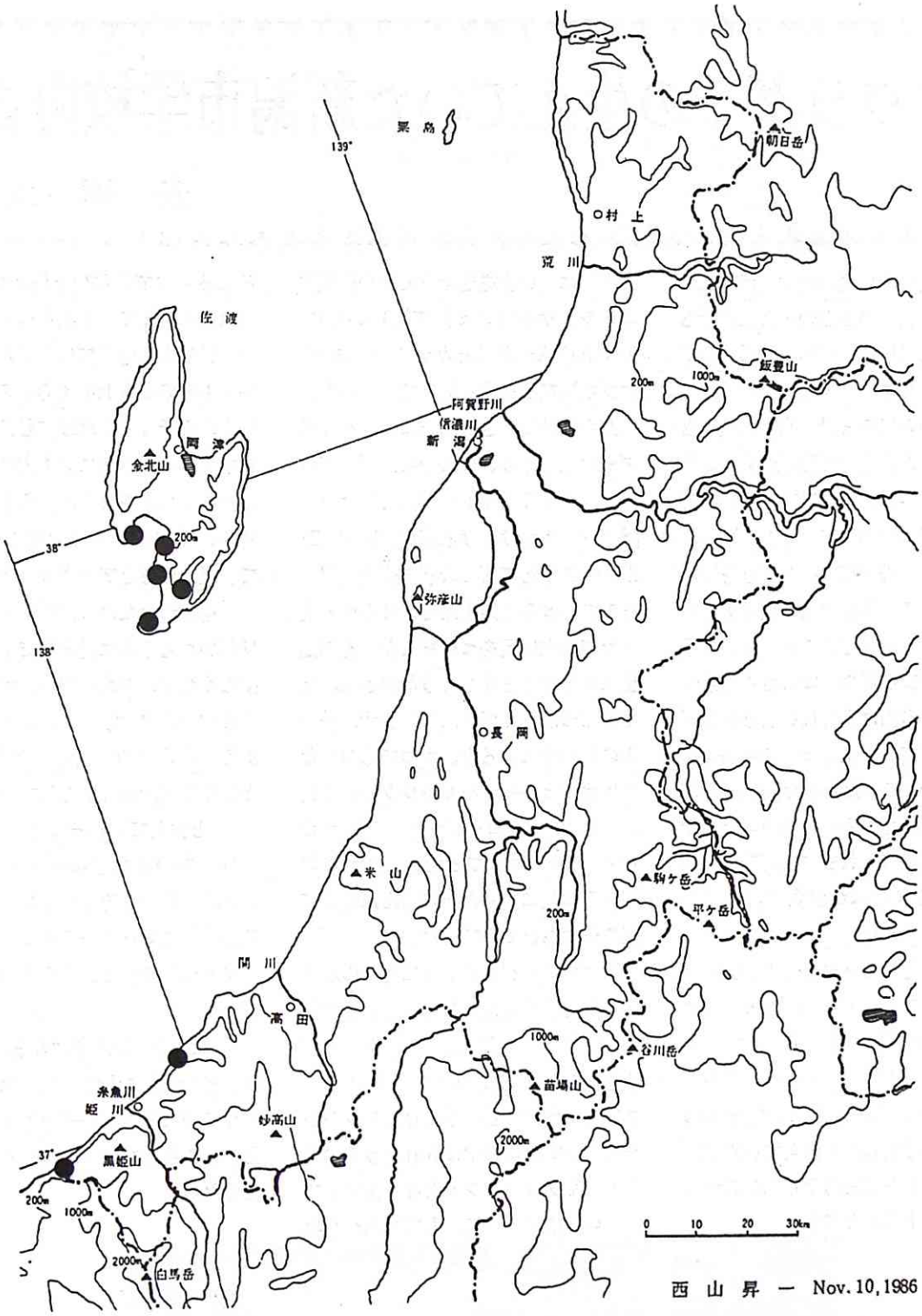


マメヅタ
（佐渡草木ノート、
寺崎日本植物図譜より）

「大倉谷のマメヅタ群落」は、国道350号線より100mほど登った海抜100m地に位置する。大倉谷の右岸にあたる岩壁は、幅30m、高さ20mにわたりマメヅタがびっしり着生し、「マメヅタの谷」と呼びたいほどである。マメヅタ群落として島内最大規模である。寺や宮の境内や屋敷内などで自然がよく保たれている場合、マメヅタは石や岩にびっしり着生するが、佐渡ではこれを「マメイシ」または「マメイシサン」と呼び大切にしている。「大倉谷のマメヅタ群落」は、佐渡的に表現すれば「大倉谷のマメイワ」である。周辺植生はタブ、ウラジロガシ、ヤブツバキなどが林となる。「大倉谷のマメヅタ群落」は、平成5年（1993）、「新潟のすぐれた自然（すぐれた植物的自然の群落）」に指定された。

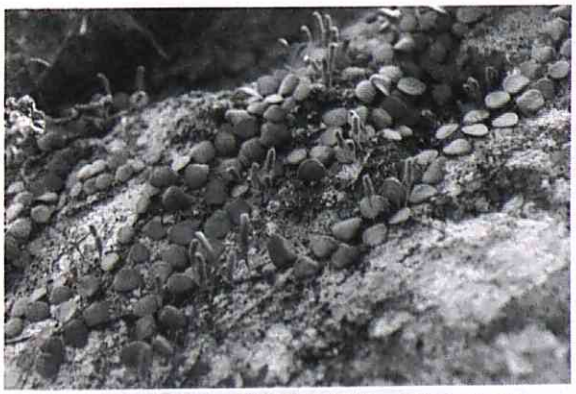
群落名	優占種	群落高	植被率	種数	環境
マメヅタ群落	マメヅタ	5cm	90％	6種	渓谷の岩壁　方位SW　傾斜70° 海抜100m 汀線よりの距離500m 調査面積　1 × 2m²
マメヅタ 5・5　ジャノヒゲ 1・2　イタビカズラ 1・1 ベニシダ＋　クマワラビ＋　イワガラミ＋					

大倉谷のマメヅタ群落（1989－11－21 調査）



Lemmaphyllom microphyllom Pr. マメヅタ （ウラボシ科）

マメヅタの新潟県における分布（新潟県植物分布図集より）



マメヅタ（写真） 佐渡郡真野川 1983. 3. 29
［撮影： 石沢進］

文献 池上義信監修・石沢進編集（1986）：新潟県植物分布図集・第7集 植物同好じねんじょ会

いとうくにお
（新潟県自然環境保全審議会専門調査員・現住所 〒952-12 新潟県佐渡郡金井町千種106-3）